

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。（Since 2006）

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	5
➤ 「リバフサポートセンター」からのお知らせ	7
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	8
➤ 会議・イベント案内 & 冊子等の紹介	9

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクトー 今後開催する「小さな自然再生」現地研修会のご案内

今年度は全 5 回の「小さな自然再生」現地研修会を開催します。既に 5 月に滋賀県と福井県の県境に位置する熊川宿・北川上流域河内川にて、6 月には新潟県新発田市の阿賀野川流域古太田川にて開催しました。

11 月には残り 3 回の現地研修会開催を予定しており、以

下にご紹介する近畿地方で開催する第 25 & 26 回現地研修会の参加者を現在募集中です。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。なお、本研修会は、公益財団法人河川財団の河川基金の助成を受けて開催しております。

(JRRN 事務局・和田彰)

第 25 回「小さな自然再生」現地研修会 in 滋賀県長浜市・大浦川

参加受付中

- ◆日時： 2024 年 11 月 2 日（土） 10：00～17：00
- ◆場所： 滋賀県長浜市西浅井
- ◆共催： ONE SLASH、「小さな自然再生」研究会、JRRN
- ◆協力： エネシフ湖北、滋賀県琵琶湖環境科学センター、公益財団法人リバーフロント研究所

地元で農業から盛り上げる若者集団「ONE SLASH」とともに仮設魚道の設置を行い、合わせて稲刈りやゲリラ炊飯も体験頂きながら、過疎化した地域をどのように活性化させていくかについて参加者とともに考えます。



URL: <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1482.html>

第 26 回「小さな自然再生」現地研修会 in 兵庫県上郡町・千種川

参加受付中

- ◆日時： 2024 年 11 月 3 日（日） 10：00～16：00
- ◆場所： 兵庫県赤穂郡上郡町苔縄
- ◆共催： 千種川圏域清流づくり委員会、「小さな自然再生」研究会、JRRN
- ◆協力： 兵庫県西播磨県民局光都土木事務所、上郡町、千種川漁業協同組合、公益財団法人リバーフロント研究所

千種川の河道内の二次流路における小さな自然再生の実践を通じて、二次流路を生物の生息・生育・繁殖の場とするとともに、地域の環境教育や川遊びの拠点としていくためにできる取組を参加者とともに見試します。



URL: <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1490.html>

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

国際交流活動－ARRN 年次活動報告（第 20 回水辺流域再生国際フォーラム 及び 第 18 回運営会議）

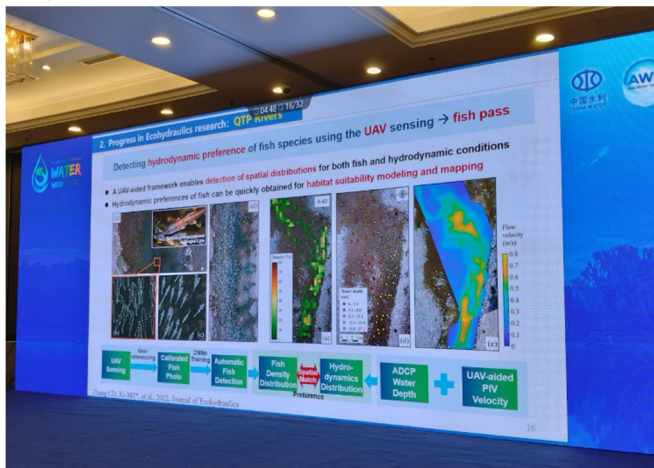
JRRN が所属するアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) 主催『第 20 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』が 2024 年 9 月 25 日 (水) に、同じく ARRN の運営会議が 9 月 26 日 (木) に中国の首都北京で開催されました。今年も昨年に引き続き対面での開催となりました。

本年は、両会議ともに 3rd Asia International Water Week (第 3 回 アジア国際水会議) の一つのセッションとして行われ、国際フォーラムは ANNR メンバー以外からも参加者がみられるなど活発な議論が行われました。

日本からは、機械学習を用いた河川の地被区分の自動判読に関する研究事例、河川水辺の国勢調査と自然再生についての発表が行われました。中国からは河川流域における生態水文学の研究発表が行われました。中国では約 10 年前から生態水文学の調査、研究が急激に増えてきており、中国国内においても環境への関心が一段と高まっている状況を伺い知ることができました。韓国からは Changneung 川 (昌陵川) における流域全体の自然再生プロジェクトについての報告等がありました。このプロジェクトでは、現状の把握、現計画のレビューをしたうえで、安全性、健全性、親水性、生態との共生の観点から新規目標を設定し、個々の目標達成のための計画・設計を行う流れが紹介されました。

また、9 月 26 日 (木) に行われた、「第 18 回 ARRN 運営会議」では、日中韓の各 RRN メンバーが参加し、ARRN の年次活動計画についての審議が行われました。

運営会議では、前回の ARRN 運営会議以降の ARRN や各国のネットワークの活動内容を共有することから始まり、来年の ARRN 運営会議の開催場所、事務局の移管（来年の運営会議以降、中国から韓国へ事務局が変更する）についての協議が行われました。また、CRRN からは、ARRN の連携や取り組みを強化するために、国際的な研究助成の活用等について提案があり、今後具体的な検討を進めることとなりました。



国際フォーラムでの研究発表 (CRRN)



SIDE EVENT SE-10

Framework and Strategy for River Restoration from the Perspective of Climate Change

14:00-18:00, 25 September 2024, Wednesday
 Beijing International Convention Center, Room 305#-CD

SUB-THEME: Framework and Strategy for River Restoration from the Perspective of Climate Change

ORGANIZER(S): Asian River Restoration Network (ARRN), China Institute of Water Resources and Hydropower Research (IWHR)

PROGRAM

Time	Topic	Moderator:
14:00-14:10	Opening	
14:00-14:10	Opening Ceremony, Opening address by the CRRN, JRRN, and KRRN.	
14:10-17:40	Speeches and discussion	
14:10-14:30	Presentation	HU Wei: Chief Engineer, Center of river and lake protection, Ministry of Water Resources of China
14:30-14:50	Presentation Estimating in-channel vegetation using satellite imagery and machine learning (provisional)	MORIMOTO Yoichi: Researcher, Japan Riverfront Research Center
14:50-15:10	Presentation	JANG Suk-Hwan: Professor, Daejin University
15:10-15:30	Presentation	XU Mengzhen: Professor, Tsinghua University
15:30-16:00	Tea break	
16:00-16:20	Presentation Development of River Environment Database and its Application to River Restoration in	WADA Akira: Senior Researcher, Japan Riverfront Research Center
	Japan	
16:20-16:40	Presentation	LEE Hyosang: Professor, Chungbuk National University
16:40-17:00	Presentation	ZHANG Junya: Associate Professor, Research Center for Eco-Environmental Sciences, Chinese Academy of Sciences. Vice President of European Chinese Association for Eco-Environment
17:00-17:20	Presentation	PARK Moonhyung: KICT
17:20-17:40	Presentation	ZHU Hongtao: Professor, Beijing Forestry University
17:40-18:00	Conclusion	
17:40-18:00	Closing remarks	

For more information about the 3rd Asia International Water Week, please visit <https://3-aiww.scimeeting.cn>.



座長と JRRN 事務局メンバーの集合写真

翌日は、中国水利水電科学研究院の案内の元、北京郊外の温榆川の現地を見学しました。見学箇所は、治水対策のために河道を直線化し、河道の付け替えを実施した箇所でしたが、同時に、環境に配慮した河道断面となっており、良好な氾濫原環境（ワンドやたまり）が創出されており、中規模河川の多自然川づくりの見本のような印象を受けたと同時に、川幅をしっかりと確保できることの重要性を再認識する機会となりました。

最後に、今回の国際フォーラム及び運営会議は、3rd Asia International Water Week の中で実施されましたが、この会議の運営は中国水利水電科学研究院が担っており、当院の学生もボランティアスタッフとして多く関わり、大変活気のある大会が形作られているように見えました。これからの未来のために、若い学生が前向きに大会運営に勤しむ姿は、とても清々しいものでした。純粋に感心し、感銘を受けたと同時に、今の日本に足りないもののような気がしたことを、付け加えさせていただきます。



ARRN 運営会議終了後の集合写真



ボランティアの学生達



ARRN 運営会議での JRRN 活動報告



ARRN 運営会議の様子



温榆川の自然再生箇所

(JRRN 事務局・森本洋一)

JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクト－「はじめての魚の居場所づくり vol.2」発行のご案内



2024 年 3 月に発行されました「はじめての魚の居場所づくり」(全 16 ページ) をバージョンアップした続編として、川を耕す取り組みや魚道などを追加した「はじめての魚の居場所づくり vol.2」(全 24 ページ) が完成しました。

この冊子は、小さな自然再生のハンドブックとして、魚にとって大切な場所について理解し、魚の居場所づくりに取り組む際のヒントを分かりやすくとりまとめたものです。

全国の水辺の小さな自然再生の担い手の皆様にとって更なる意欲と活力につながり、地域に根差した川づくりの更なる推進に寄与すれば幸いです。

なお、本冊子は、(公財) 河川財団の河川基金の助成を受けて作成されたものです。

※印刷版は今後開催する研修会等の行事において配布してまいります。個人でご希望の方は、右記よりダウンロードしてご活用ください。

●冊子名：「はじめての魚の居場所づくり vol.2」

●制作：

滋賀県立大学大学院

(泉野珠穂・安田希亜良・瀧健太郎)

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

●発行：

滋賀県流域政策局、

滋賀県立大学大学院流域政策・計画学研究室

公益財団法人リバーフロント研究所

●発行年月： 2024 年 8 月

→「はじめての魚の居場所づくり vol.2」ダウンロードページはこちら

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/375>

(JRRN 事務局・和田彰)

10 月



あの日のあの川 リレー日記 ～第 76 話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第 76 話主人公 芦村亮人

（筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川（直）研究室『川と人』ゼミ）

（□川ガール・■川系男子）

（出身地を流れる川：神奈川県早渕川）

「水がなくなった！？」

いつのこと？： 小学生

どの川？： 相模川

宮下さんからバトンを受け取りました。白川研究室所属の芦村亮人と申します。

僕が小学生のころ、家族でバーベキューをしに行った時のことです。祖父母の実家が近かったこともあり、相模川の河川敷にある上大島キャンプ場に行きました。今回は、そのキャンプ場近くにある池について紹介させていただこうと思います。

相模川は山梨県、神奈川県を流れる一級河川です。その河川敷沿いに位置している上大島キャンプ場はテントやバーベキュー炉などがあり、釣りや桜の名所としても有名なキャンプ場です。とてもいいところなので興味がある方はぜひ行ってください！

その日は朝早くから実家を出発し、お昼前にはキャンプ場につき、お肉を焼いて食べ、近くに大きな池があるということでそこで遊ぶという流れでした。その池を目の当たりにした際には、とても大きくて驚いた記憶があります。実際にその池は学校のプール 2 個分程の大きさで、水深も当時の僕の顔近くまでありました。また、真夏なのに水温がとても低くて、池に入るのに勇気が必要なくらいでした。人もたくさんいて、子供たちが浮き輪などを持ってきて遊んでいました。水は透き通っていて、魚も泳いでいました。たくさん遊び、とても楽しい思い出とともに帰宅しました。

それから 2 年越しに再び楽しかったキャンプ場に行った時のことです。前回と同じようにバーベキューをし、池に遊びに行ったところ、人もたくさんいて、とても大きかった池が 1/5 程度の大きさになっていました。とても楽しみにしていたのですが全く違う姿になってしまっており、とても残念だったのが今でも覚えています。

リレー日記を書かせていただく際にこの思い出が浮かび調べてみたところ、このような池のことを“河跡湖”と呼ぶそうです。河跡湖は川の流れが変わった後に、川の一部が取り残されて形成される水たまりや池のことを指し、川の近くで自然に発生しやすいものです。そして、時間の経過とともに蒸発したり、土砂や泥が堆積し、水深が浅くなり、最終的になくなってしまうことがあります。初めて行ったときは、水がきれいだったこともありまだ川から切り離されていないか、切り離されて間もない状態で、その後完全に切り離されてしまい、池の多くの水がなくなってしまったのだと思います。

このリレー日記を通じて身近にある川でもまだ自分が知らないことがたくさんあるのだと感じました。近くの川から目を向けて、川に対する知見を広げていきたいと思います。

(次は佐々木さんにバトンを託します)

「リバフロサポートセンター」からのお知らせ RiverFront Support Center

※「リバフロサポートセンター」は、公益財団法人リバーフロント研究所が強みとするテーマの情報、技術、研究成果、また川づくりの楽しさややりがい等を社会に発信し、水辺とまちのパートナーとして各地域の担い手を支援します。JRRN はリバフロサポートセンターと二人三脚で川づくり・まちづくり・流域づくりの推進に取り組んでおります。

「大河川における多自然川づくり～Q&A 形式で理解を深める～」 第 15 回目のウェブセミナーを開催しました！ 次回は 11 月 14 日、開催予定です！

「多自然川づくりサポート」事務局（担当：渡邊祐介）

■第 15 回 大河川における多自然川づくりウェブセミナー



「第 15 回 大河川における多自然川づくりウェブセミナー」を令和 6 年 10 月 4 日（金）に開催しました。

第 15 回目は、「Q5-2 高水敷掘削や切下げを行う際に、掘削の効果を長持ちさせながら、河川環境の改善に寄与するための留意点を教えてください。」に関連して、「治水と環境を考えた河道掘削を目指して」と題して国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学高等研究院 環境社会共生体研究センターの原田守啓教授・副センター長からご紹介いただきました。

参加申込者は、行政関係者が約 4 割、コンサルタント関係者が約 5 割で全体の約 9 割を占めており、合計で 446 名の方々に参加申込いただきました。

また、当日は河道掘削を行う上での深さや範囲などに関する考え方や残すべき石礫の大きさ、再樹林化に関する評価等について合計 13 個の質問をいただきました。参加者の皆様には活発な議論をいただきありがとうございました。

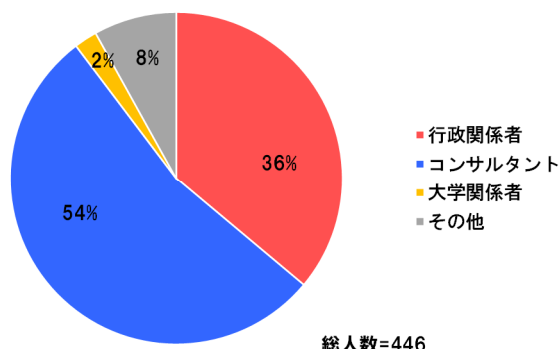


図 参加申込者の職種分類

<第 15 回 ウェブセミナー開催概要>

- 開催日時：令和 6 年 10 月 4 日 16:00～17:00
- 開催形式：ZOOM ウェビナー
(事前申込制、参加費無料)
- タイトル：Q5-2 高水敷掘削や切下げを行う際に、掘削の効果を長持ちさせながら、河川環境の改善に寄与するための留意点を教えてください。
- プログラム：
 - ① 治水と環境を考えた河道掘削を目指して
講演者：国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学
高等研究院 環境社会共生体研究センター
教授・副センター長 原田 守啓
 - ② 意見交換
- CPD：1.0 単位（土木学会認定）

■次回開催予定、過去の講演動画の紹介

次回は 11 月 14 日開催予定です。

また、過去の講演動画はリバーフロント研究所 HP にて公開中です。

次の開催案内、過去の講演動画等の詳細は以下の URL をご覧ください。

<http://www.rfc.or.jp/daikasen.html>

■大河川における多自然川づくり～Q&A 形式で理解を深める

本書では、大河川における多自然川づくりを実践するため、現場で直面する課題を Question とし、これに Answer とし、答える形式で、これまで日本が蓄積してきた知見が分かり易く紹介されています。

※本 Q&A のダウンロードはこちらから

https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/tashizen/qa.html

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2024 年 9 月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第 32 回『リバーフロント研究所 研究発表会』(オンデマンド配信) (2024 年 10 月 16 日 (水) 13:00~)

(公財) リバーフロント研究所より、本年の研究発表会のオンデマンド配信のご案内です。

『第 32 回リバーフロント研究所研究発表会』(オンデマンド配信)として、2024 年 9 月 13 日 (金) に日本橋社会教育会館で開催された模様を抜粋して配信いたします。

今回は、京都大学大学院地球環境学部の山口敬太准教授より「気候変動適応策としての「水と緑のまちづくり」の展望 - 海外事例からの学び -」のテーマでご講演いただきます。その後、当研究所の研究員による研究成果の発表をいたします。

ご多忙とは存じますが、多くの皆様のご視聴をお待ちしております。

■日時 : 令和 6 年 10 月 16 日 (水) 13:00 より配信開始

■URL : <https://www.rfc.or.jp/ivent2024.html>

■視聴 : 無 料

■その他 : 「第 32 回リバーフロント研究所研究発表会 (オンデマンド配信)」は土木学会継続教育(CPD)制度のプログラム (3.4 単位) に認定されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4337.html>

第 32 回 リバーフロント研究所研究発表会 (オンデマンド配信) プログラム

日 時 : 令和 6 年 10 月 16 日 (水) 13 時 00 分より配信開始 視聴無料
U R L : https://www.rfc.or.jp/ivent2024_hokokukai.html

- ・基調講演 (敬称略) (計 71 分)
気候変動適応策としての「水と緑のまちづくり」の展望 - 海外事例からの学び -
.....京都大学大学院地球環境学部 准教授 山口 敬太
- ・研究発表 (計 23 分)
1. 市道の基礎的調査と今後に向けた予備的考察 (計 23 分)
.....水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 北澤 史
- 2. 小さな自然再生から河川環境を学ぶ (計 20 分)
.....河川管理者を対象とした研修支援の取組 -
.....水循環・まちづくり・防災グループ 主任研究員 和田 彰
- 3. 河川生態学術研究会による緊急宣言の概略と環境危機の今後の展開 (計 32 分)
.....自然環境グループ 主任研究員 内藤 太輔
- 4. 実河川を対象とした河川環境の定量的検証手法に関する研究 (計 31 分)
.....自然環境グループ 主任研究員 白尾 泰宏
- 5. ネイチャー・ボジティブ実現のための河道設計の実践に関する検討 (計 22 分)
.....水と緑のまちづくり・川づくりに向けて -
.....主席研究員 西村 恭彦

令和 6 年 9 月 13 日に日本橋社会教育会館で開催された模様を抜粋して配信いたします。

本研究発表会は、土木学会継続教育(CPD)制度のプログラム (3.4 単位) に認定されています。CPD を希望される方は、認定に当たり、開催・公開日時から 2 週間以内 (令和 6 年 10 月 30 日 13 時まで) に願付手続きが必要です。視聴前に下記 URL より、お申し込みください。
※令和 6 年 9 月 13 日開催 (於: 日本橋社会教育会館) で CPD 単位を取得された方はこちらでの申請はできません。

【お申込み URL】

https://e-ve.event-form.jp/event/82427/32th_ondemand

※CPD をご希望でない方は、上記お申込みは不要です。



【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第 214 回 河川文化を語る会「江戸時代中期の紀州流・井澤弥惣兵衛為永の業績について (11/21 開催)」

第 214 回「河川文化を語る会」は、彩の川研究会と共催し埼玉県にて開催いたします。

講師には、千葉県立関宿城博物館の調査協力員である市川幸男氏を講師に迎え開催いたします。ぜひご参加ください。

なお、当講演会は、土木学会 CPD プログラムの認定 (単位数: 2.0) を受けています。

■開催日: 2024 年 11 月 21 日 (木曜日) 14:00~16:00

■会場: 埼玉県県民健康センター 大会議室 A

〒330-0062 さいたま市浦和区仲町 3-5-1

■募集人数: 100 名 (先着順)

■参加費: 無料

■申込締切: 定員に達し次第締め切らせていただきます。

■申込み/問い合わせ: 公益社団法人 日本河川協会

TEL: 03-3238-9771 FAX: 03-3288-2426

E-mail: kataru@japanriver.or.jp

URL: <https://www.japanriver.or.jp/>

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4341.html>

第 214 回
河川文化を
語る会

参加費
無料

江戸時代中期の
紀州流・井澤弥惣兵衛為永の業績について
千葉県立関宿城博物館 調査協力員 市川幸男

講演概要

江戸時代中期の治水手法として有名な紀州流の勘定時味役の井澤弥惣兵衛為永の主な業績として、見沼代用水の開削、見沼の干拓・新田開発、見沼通船堀の構築は著名です。見沼通船堀には、現在の天皇陛下が皇太子時代に行啓されたことでも有名です。関東地方では、他に飯沼干拓や吉田用水の開削、江戸川中流部のショートカット工事も大規模な事業です。井澤弥惣兵衛為永は 60 才の年齢で、第八代将軍徳川吉宗に召し出されて、関東地方各地の治水、利水工事の設計・工事監督を果しました。晩年には 70 才を過ぎて美濃郡代を兼任して、木曾三川に分隴計画の策定をしました。この計画は後に、薩摩藩による宝暦の治水につながります。本講演では、このような井澤弥惣兵衛為永の業績をご紹介します。



見沼通船堀 (東縁) 開門開閉実演状況

日時: 2024 年 11 月 21 日 (木)

14:00~16:00 13:30 (受付開始)

定員: 100 名 (先着順)

土木学会 CPD (2.0 付与単位) が取得できます。

会場案内及び申込詳細は裏面をご覧ください

会議・イベント案内 (2024 年 10 月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント) ※前頁でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■第28回水シンポジウム 2024 in ながの

○日時：2024 年 10 月 31 日 (木) 13:00~17:30
 ○主催：「第28回水シンポジウム 2024 in ながの」実行委員会
 ○場所：長野市若里市民文化ホール (長野県長野市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3580.html>

■応用生態工学会 第22回 北信越現地ワークショップ in 福井

○日時：2024 年 11 月 15 日 (金) ~16 日 (土)
 ○主催：応用生態工学会福井、応用生態工学会
 ○場所：福井県立大学交流センター講堂 他

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3571.html>

■地域共創で進めるグリーンインフラの生物多様性保全に向けて

○日時：2024 年 11 月 19 日 (火) 14:00~15:00
 ○主催：国土交通省北海道開発局 他
 ○場所：オンライン

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3578.html>

■第15回北海道 e-水フォーラム

○日時：2024 年 11 月 22 日 (金) 18:00~20:30
 ○主催：北海道、北海道コカ・コーポリング株式会社 他
 ○場所：札幌国際ビル国際ホール (札幌市中央区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3574.html>

■第16回淡海の川づくりフォーラム

○日時：2024 年 12 月 1 日 (日) 10:00~16:30
 ○主催：第16回淡海の川づくりフォーラム実行委員会
 ○場所：米原市役所市民交流エリア コンベンションホール
 (滋賀県米原市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3576.html>

冊子等の紹介 *Publications*

■水辺の小さな自然再生 人と自然の環を取り戻す



地域住民が発案・協働し、手づくりの技で、身近な生物の生きる環境を回復する「小さな自然再生」が全国で進んでいる。北海道で地域住民の発意により行なわれている小さな自然再生、とくに「手づくり魚道」の取り組みを紹介しながら、地域の人々にとって身近な自然やそれと結びついた風景はどんな存在なのか、地域の力でそれを取り戻すことの意味は何かを問う。

<目次>

序章 変貌した故郷の風景——失われた空間の履歴
 第1章 小さな自然再生との出会い——三郎川手づくり魚道ものがたり
 第2章 広がる小さな自然再生
 第3章 なぜいま小さな自然再生なのか
 終章 小さな自然再生がひらく未来
 終わりにかけて——海に生きる人に、風を

- 著者 中川大介 著
- 定価 2,200 円 (税込)
- 発行日 2023 年 12 月
- 出版 農山漁村文化協会(農文協)
- 詳細はこちらから：

<https://toretate.nbkbooks.com/9784540222023/>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内
 Tel:03-6228-3861 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net
 URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>